

〔古事記傳二十九〕孝德、卷に畿内の定め見えて、此は後の定めとは、其界限いさゝか異なることとも、畿内と云ふことは見えたれ、持統ノ卷に、四畿内と云ふこと處々に見え、これは後の五畿内と同じ、當下略。○

〔日本書紀三十一〕六年四月庚子、除四畿内百姓爲荷丁者今年調役。
 〔續日本紀二文武〕大寶二年十二月乙巳、太上天皇○持統不豫、大赦天下、度一百人出家、令四畿内講金光明經。

○按ズルニ、四畿内ハ大倭河内、難波、山背ノ四國ナリ。

〔續日本紀八元正〕養老五年三月癸丑、勅曰、○中其左右兩京及畿内五國、並免今歲之調。○下

○按ズルニ、是ヨリ先、靈龜二年、始テ和泉監ヲ置ク、因テ畿内五國ノ稱アリ、後聖武天皇ノ天平十二年、和泉監ヲ河内國ニ併合シテ、復タ四畿内ト稱ス、事ハ分割國條ニ詳ナリ、宜シク參看スベシ。

〔續日本紀二十九〕天平寶字元年四月辛巳、是日遣内舍人藤原朝臣薩雄、中衛二十人、迎大炊王立爲皇子、勅曰、○中又東大寺匠丁、造山陵司役夫、及左右京、四畿内、○中紀伊等國兵士、○中並免今年田租、五月乙卯、勅曰、○中其能登安房、和泉等國依舊分立。

○按ズルニ、是ヨリ後永ク五畿内ト稱スルニ至レリ。

〔續日本紀二十四淳仁〕天平寶字七年正月戊午、詔曰、○中役使造宮、左右京、五畿内、及近江國兵士等、寶字六年田租並免之。

〔延喜式二十〕畿内、山城國上○郡名、大和國大河内國大和泉國下攝津國上
 〔扶桑略記三十〕應德三年十月廿日甲辰、公家近來九條以南鳥羽山莊新建後院、○中五畿七道六十餘州皆共課役、堀池築山、自去七月至今月、其功未了、洛陽營々无過於此矣。